

混沌をくぐり、老いを押し、孤軍奮闘から脱す

<われにかえる>方法

長い時間の中に自分をおくことが一つの方法です。2005年から仕事でも使っている『略系表』、これまで1,500人ほどの手元に渡っていますが、残っているなら、出して書いてみましょう。

なければ、自分で作ればいい。0歳からでも、起業前ぐらいからでも。項目も自分なりのものを設定する。つくった表はプリントアウトして手で書いていく。この時間が<われにかえる>のです。

合点 「話す」と「書く」

『「話す」は言葉以外の要素が重要。「書く」は書き手からさえ相対的に自立して、自らリアリティーを追求する独自の生き物となる。例えばビジネス上の企画書』(日経2009年7月28日)。

『話すこと、書くことは魂の労働です、特に書くことは。人に見せても見せなくても書きましよう』(批評家の若松英輔氏)。

『そんな風に考えたこと、なかったです』。A4横長の白紙に書かれていく自分の過去、現在、未来。起業までのこと、起業からの10年、20年、30年…。いま現在の混沌を相談に来た女性。

『ああ、ありがとうございます。来た、本当に』。来たときの固い雰囲気、帰りには<われにかえた>表情になっていた。

“いくつになられたかしら…”。後ろ姿が小さく見えた。旧知の人。これまで年齢を聞いたことも聞かれたこともない。確実に年を重ねていることは、互いに見ればわかる。

年に一度会うか会わないか。数年会わない時もあった。久しぶりに仕事ぶりを目の当たりにする。大きな役割に感心する。一方で見てとる時間の限り。こうして関るのも、限られる。

“いっそのこと、全部離してしまえば楽でしょうけど”。仕事で接する経営者。あれもこれも、質の違う仕事を日々こなう中小企業経営者、後継者。孤軍奮闘は常。真面目な人ほど、悩みは深い。

安定の時に力を貸す人、不安定の時こそ力になる人。持って生まれた役割に応じ適材適所。おそらく後者は少数派。



誰かが誰かの助けになる。目にみえて、みえないところで。仕事であって、なくて。混沌をくぐりぬけ、老いを押し、孤軍奮闘から脱する力。そのような役割に本分ありと律す。

11月立冬。2015年も残りひと月少々。ここまでの出会い、出来事、展開をふり返り、意味づけ、新しい年の兆しを計り始める頃。慌しくても、<われにかえる>時間をお忘れなく。

「地域」に風穴、未来に扉～女性たちのプレ起業～

独立して20数年もなると、よくもわるくも<自分ならではの>を思い知ります。その一つはバランス感覚。仕事のフィールドにも表れ、規模の大小、営利・非営利をとわず、関っています。その中でいろいろ見てとる点の一つ。

地域デビュー、地域で活躍するリーダーというテーマで講師を担

当。夏から始まり来年にかけても続くのですが、いま感じている“「地域」のためになりながら、飛躍する女性たちの胎動”。

ただ当人たちはまだそう思っていない、認識していない。だからハッパをかけました。「地域」の役に立ちながら、もっと先も見据えて、未来に飛躍を！、と。

LEE'S リーズ
http://www.leeslee.com
〒530-0012
大阪市北区芝田2丁目8-15
北梅田ビル35号
リー・ヤマネ・清実